

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2013.6.25

No.421



平成 25 年夏のボーナス調査

レポートの概要

平成 25 年夏のボーナス受給見込額は、平均で昨年夏を 2 千円上回る 33 万 2 千円となった。一方、ボーナスの希望額は平均で 47 万 3 千円となり、受給見込額との間に 14 万 1 千円の乖離を生じた。なお、今夏のボーナスの伸び(見込み)は、昨年夏に比べ、「良くなる」が減少、「悪くなる」は増加し、期待指数は 42.1 となった。昨年夏に比べ 1.4 ポイント低下したものの、平成 23 年からの推移をみると比較的高い水準といえる。

ボーナスの使途計画は、「消費」割合が 39.2%、「貯蓄」割合が 44.3%、「返済」割合が 16.5%となった。昨年夏に比べ「消費」割合が減少し、「貯蓄」割合は増加、「返済」割合は横ばいとなった。

「貯蓄」の目的については、昨年夏同様、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が最も高く、「老後の備え」、「教育」がこれに次いだ。また、昨年夏に比べ、「旅行」の増加が目立った。

最近の暮らし向き調査では、24 年冬に比べ「良くなった」とする割合が 0.8 ポイント増加し、「悪くなった」とする割合は 7.1 ポイント減少した。この結果、暮らし向き指数は 3.9 ポイント上昇し 45.1 となった。

平成 25 年夏のボーナス調査

(1) ボーナス支給見込額

平均 33 万 2 千円、昨年夏の実績を 2 千円上回る

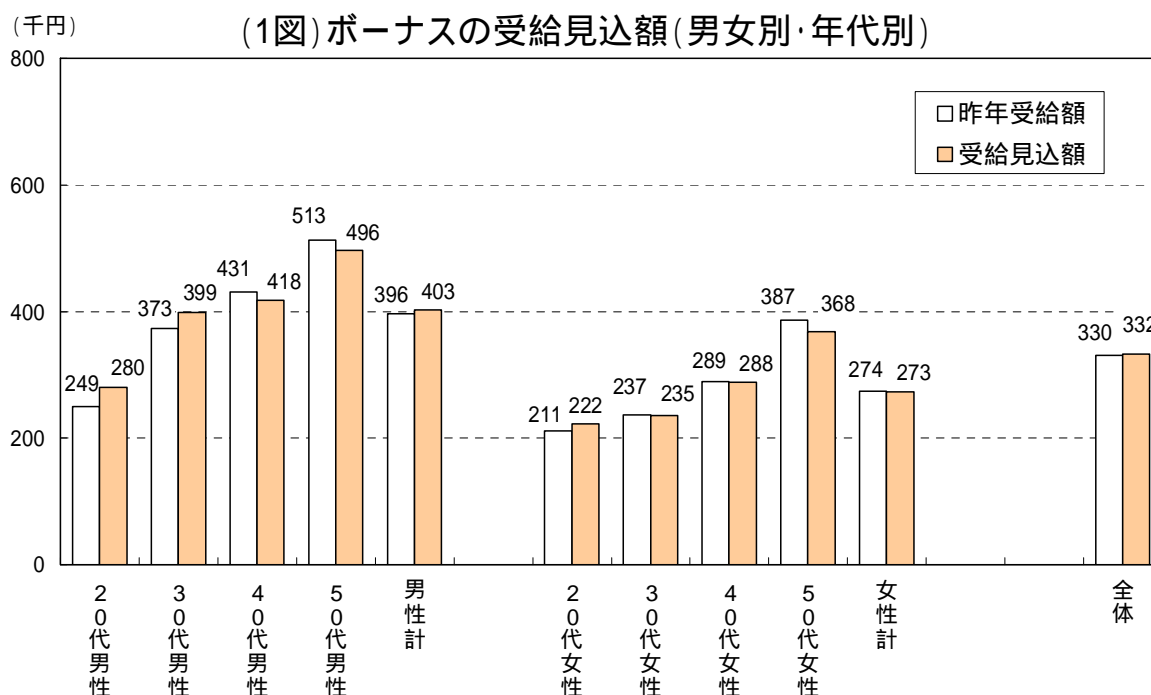
県内給与所得者が予想する今夏のボーナス支給見込額は、全体の平均で 33 万 2 千円となり、回答者の昨年夏の支給実績(平均 33 万円)に比べ 0.6%、2 千円上回った。これを男女別・年代別にみると、最も見込額が多かったのは 50 代(50 代以上を含む、以下同様)男性の 49 万 6 千円で、次いで 40 代男性の 41 万 8 千円、30 代男性の 39 万 9 千円、50 代女性の 36 万 8 千円などの順となった。

男女別の平均支給見込額を比較すると、男性が 40 万 3 千円、女性は 27 万 3 千円

と、男性が女性を 13 万円上回った。

年代別に今夏の支給見込額と昨年夏の支給実績との開きをみると、20 代男女及び 30 代男性で見込額が支給実績を上回り、他の年代では下回る見込みとなっている。その差額をみると、20 代男性(3 万 1 千円上回る)、30 代男性(2 万 6 千円上回る)が目立っているが、30 代、40 代女性は 2 千円以内にとどまっており、全体に小幅な乖離幅となった。

(以上、1 図参照)



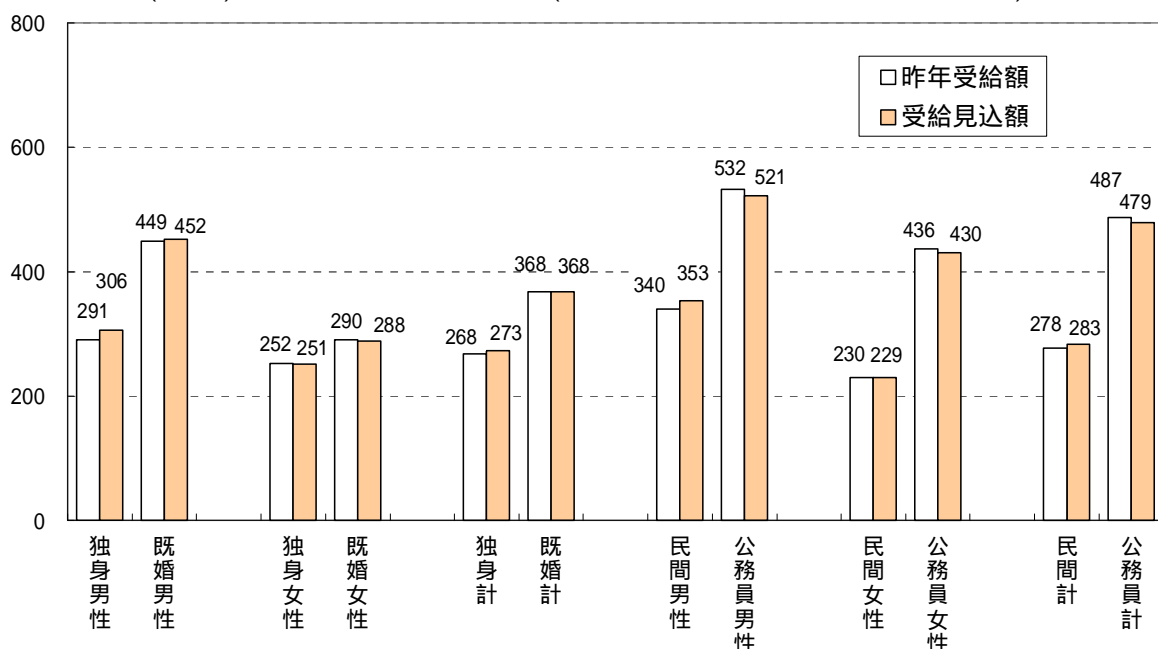
次に、平均受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が27万3千円、既婚者が36万8千円となった。昨年夏の受給実績と比べると、独身者が5千円上回り、既婚者は横ばいに見込んでいる。独身者は男性の見込額が受給実績を1万5千円上回り、女性は1千円下回った。一方、既婚者は男性が3千円上回り、女性は2千円下回った。

また、民間・公務員別でみると、民間が28万3千円、公務員が47万9千円となっ

た。昨年夏の受給実績と比べると民間が5千円上回り、公務員は8千円下回ると見込んでいる。男性は民間が1万3千円上回り、公務員が1万1千円下回った。一方、女性は民間が1千円、公務員が6千円それぞれ下回った。

(以上、2図参照)

(千円) (2図) ボーナス受給見込額(独身・既婚別、民間・公務員別)



(2) ボーナスの希望額

ボーナス希望額、平均47万3千円

今夏のボーナス希望額は全体の平均で47万3千円となり、受給見込額33万2千円との間に14万1千円の乖離を生じた。

平均希望額を男女別・年代別にみると、最も多かったのは50代男性の71万1千円で、次いで40代男性の62万2千円、50代女性の52万5千円、30代男性の51万

8千円などの順となった。希望額と受給見込額との乖離幅を男女別にみると、男性が16万4千円、女性は12万1千円となった。年代別にみると、50代男性が21万5千円で最も大きく、次いで40代男性の20万4千円、50代女性の15万7千円などとなった。また、独身・既婚別にみると、男女とも

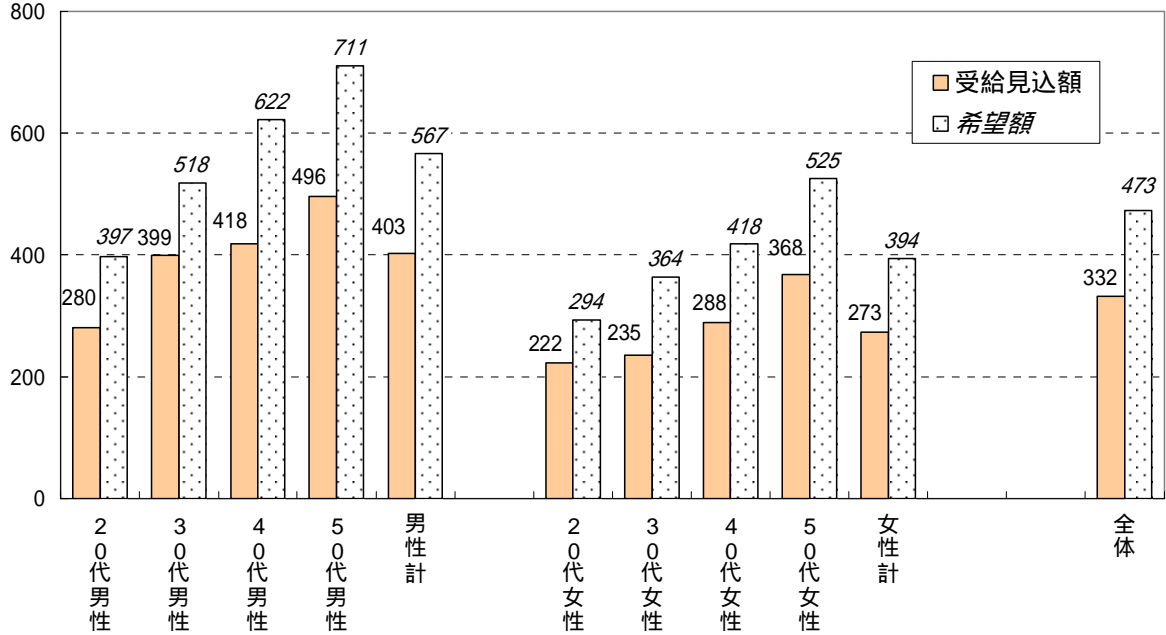
既婚者は独身者よりも開きが大きく、既婚男性は17万円の乖離幅となった。民間・公務員別でみると、公務員男性で18万3千円と

乖離幅の大きさが目立った。

(以上、3、4図参照)

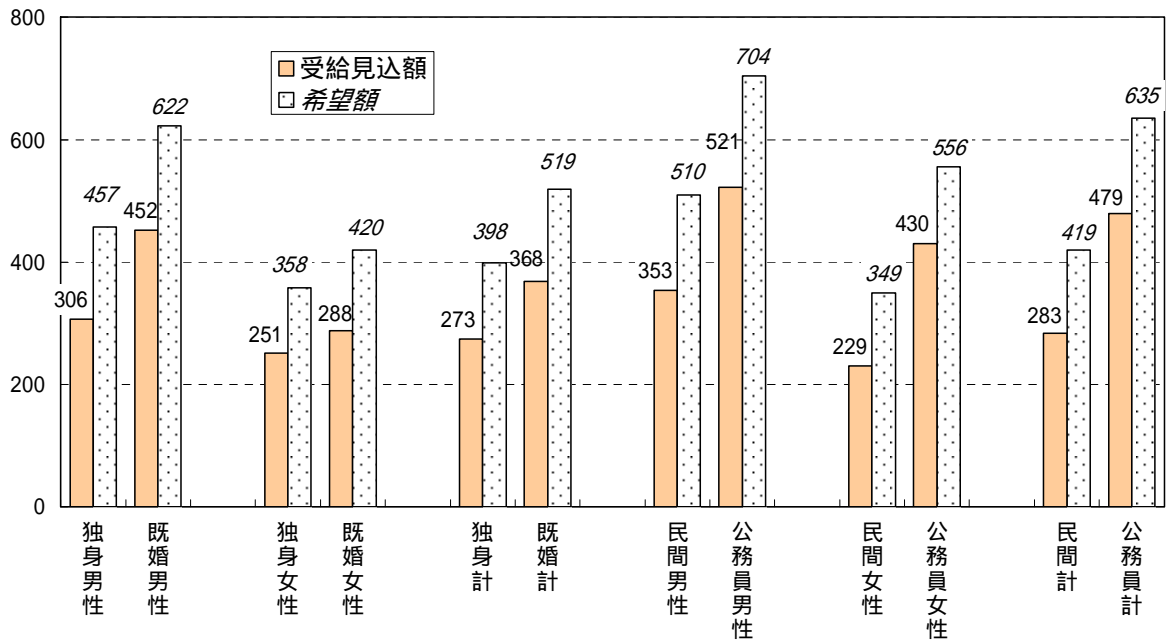
(千円)

(3図) ボーナス希望額(男女別・年代別)



(千円)

(4図) ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



(3) ボーナスの伸びについて

期待指数、昨年夏比 1.4 ポイント低下したものの、比較的高い水準

今夏のボーナスの伸びは昨年夏に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は全体の 8.3%、「悪くなる」が 24.1%、「変わらない」が 67.6%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5 図、注記参照)は 42.1 となった。

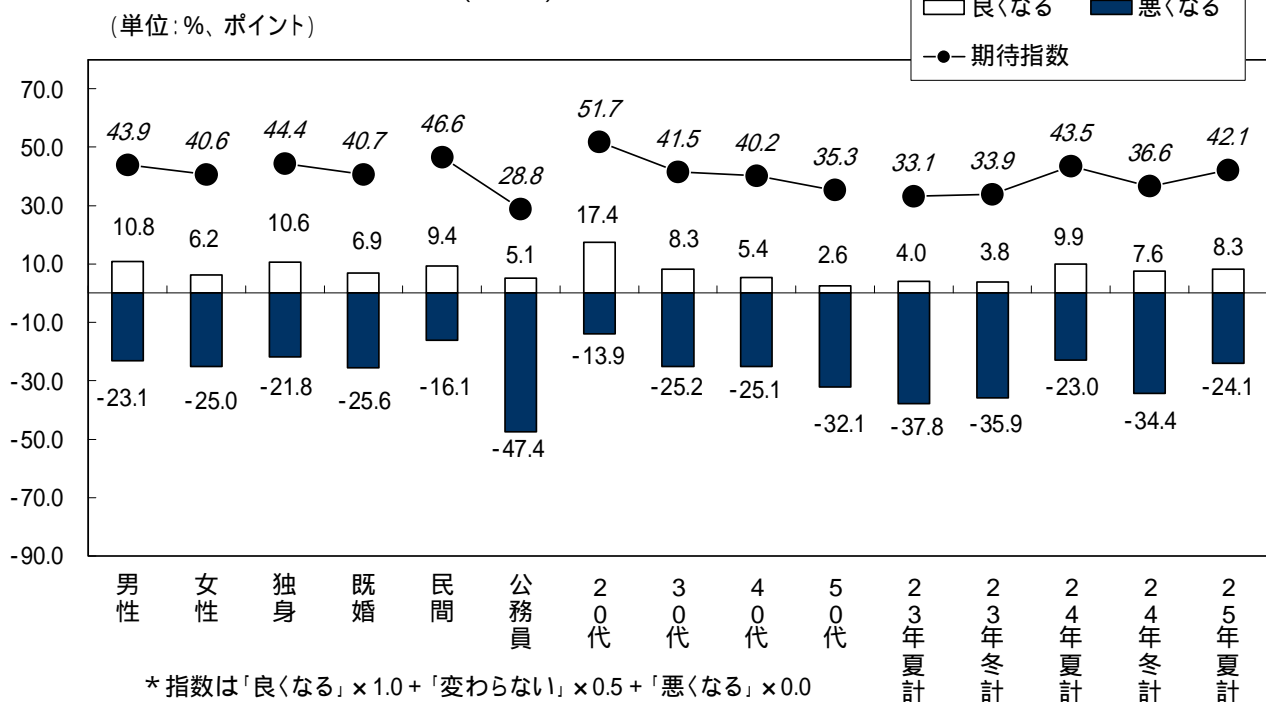
昨年夏に比べると「良くなる」が 1.6 ポイント減少、「悪くなる」は 1.1 ポイント増加し、期待指数は 1.4 ポイント低下したものの、23 年夏からの推移をみると比較的高い水準であ

ることがうかがわれる。

属性別にみると、20 代は「良くなる」とする回答が 17.4%と、「悪くなる」の 13.9%を上回り、期待指数は 51.7 となった。期待指数は昨年夏(20 代:54.7、30 代:45.4、40 代:41.5、50 代:33.2)に比べると、20~40 代で低下したが、50 代では上昇した。独身・既婚者別では、独身者は「良くなる」が 10.6%と既婚者を上回った。民間・公務員別では公務員の「悪くなる」が 47.4%と半数近くを占めた。

(以上、5 図参照)

(5 図) ボーナスの伸び



(4) ボーナスの使途計画

「消費」割合が減少し、「貯蓄」割合は増加

この夏のボーナスの使途計画は、「消費」割合が 39.2%、「貯蓄」割合が 44.3%、「返済」割合が 16.5%となった。昨年夏に比べ

ると、「消費」割合が 2.1 ポイント減少し、貯蓄」割合は 2.1 ポイント増加した。「返済」割合は横ばいとなった。

男女別にみると、男性は「返済」割合、女性は「消費」、「貯蓄」割合が高かった。独身・既婚別では、独身者は「貯蓄」割合が50.2%と高く、既婚者は「消費」、「返済」割

合が高かった。民間・公務員別では民間が「消費」、「貯蓄」割合が幾分高く、公務員は「返済」割合が高かった。

(以上、1表参照)

(1表)ボーナスの使途計画

(単位:%)

	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車		住宅	その他		
男性	38.0	17.1	8.3	5.5	7.1	42.2	19.8	5.1	10.1	4.6
女性	40.2	17.3	8.7	5.3	8.9	46.1	13.7	4.7	5.0	4.0
独身者	36.5	16.0	8.4	6.9	5.2	50.2	13.3	6.2	2.2	4.9
既婚者	40.9	18.0	8.5	4.5	9.9	40.6	18.5	4.0	10.6	3.9
民間	39.7	17.8	8.7	5.6	7.6	44.8	15.5	5.1	6.6	3.8
公務員	37.9	15.5	8.1	4.9	9.4	43.0	19.1	4.3	9.3	5.5
25年夏計	39.2	17.2	8.5	5.4	8.1	44.3	16.5	4.9	7.3	4.3
24年夏計	41.3	16.3	8.2	6.0	10.8	42.2	16.5	3.9	7.0	5.6
23年夏計	39.6	18.0	8.8	5.2	7.6	44.7	15.7	4.2	6.9	4.6

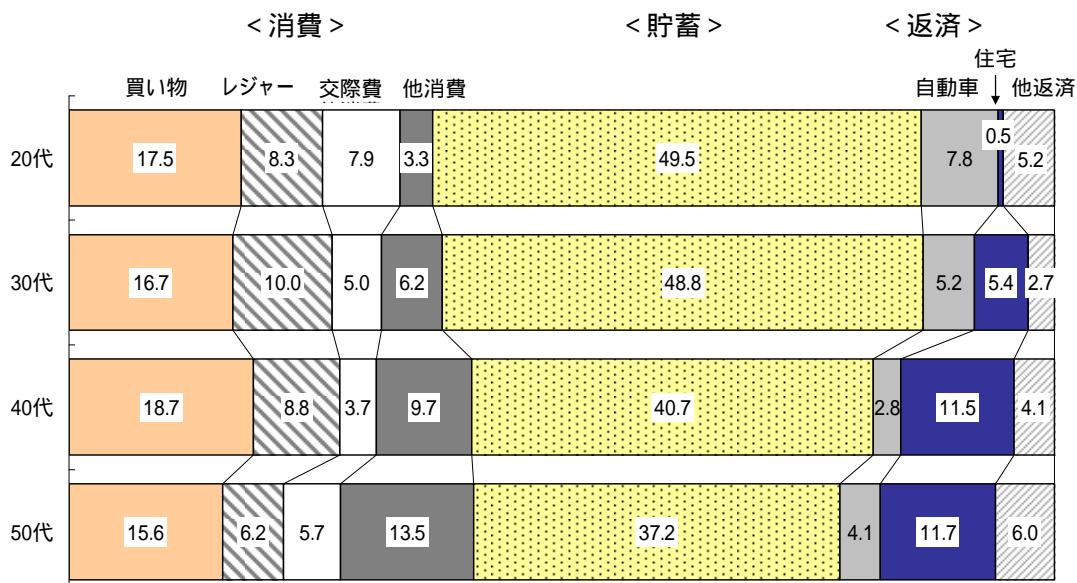
年代別にみると、「消費」割合は20代が37.0%で最も低く、年代が進むにつれて割合が高くなった。50代は41.0%となったが、今回調査では年代間での大きな開きはみられなかった。「貯蓄」割合は20代が49.5%、30代が48.8%と5割近くを占める一方、40代、50代は4割前後となった。「返済」割合は20代が13.5%と最も低

く、年代が進むにつれて割合が高くなり、50代は21.8%となった。内訳をみると、20代では自動車ローンの割合が高いのに対し、40代、50代では住宅ローンの返済割合が使途計画全体の1割以上と、大きなウェイトを占めていることがうかがわれる。

(以上、6図参照)

(6図)年代別ボーナスの使途計画

(単位:%)



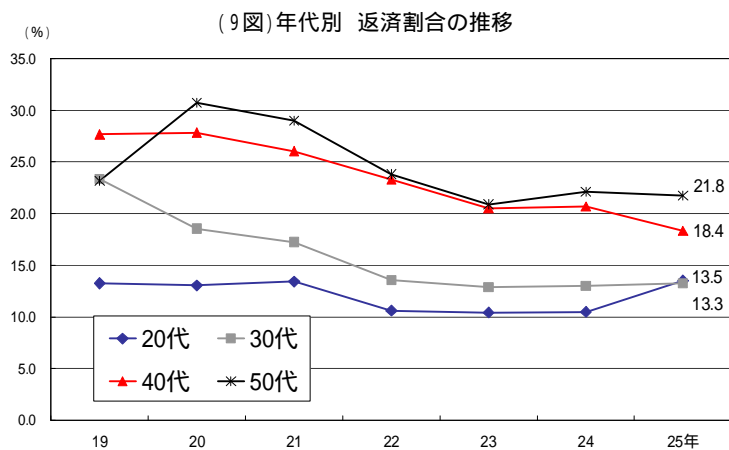
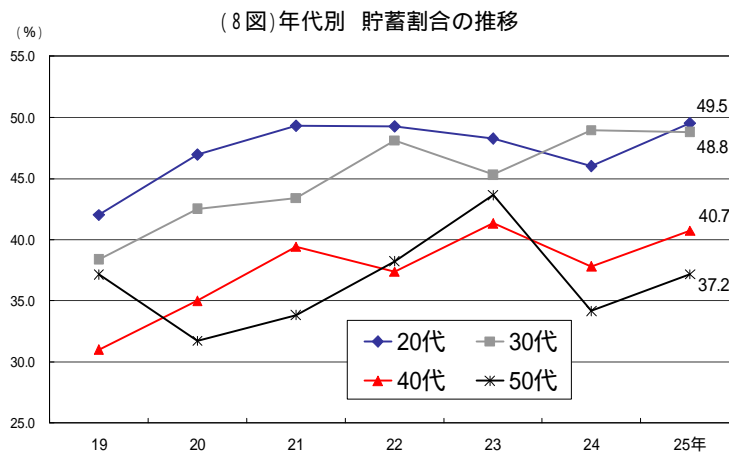
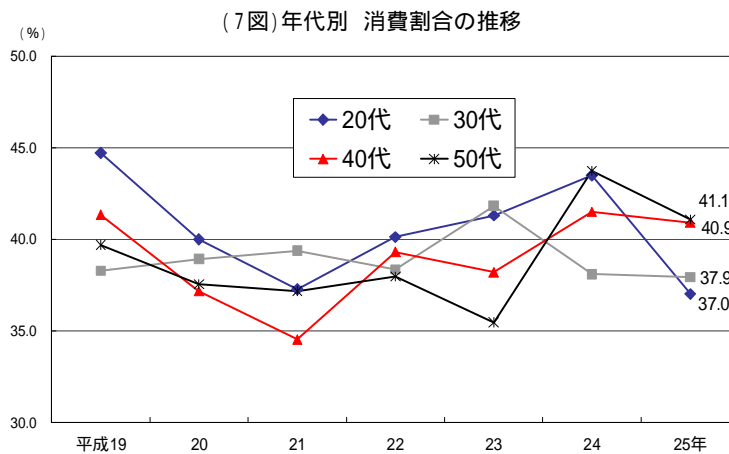
夏のボーナスについてそれぞれの割合の推移を年代別にみると、平成25年の「消費」割合は前年に比べ20代が6.5ポイント減と大幅に落ち込んだ。また、30代、40代、50代でも減少がみられた。しかしながら過去の推移からみると、4割以上を占める40代、50代は比較的高めの水準といえる。

「貯蓄」割合をみると、20代、40代、50代で前年比約3ポイントの増加がみられ、30

代は0.1ポイント減とほぼ横ばいとなった。また、「返済」割合は20代が前年比3.0ポイント増加、40代は2.3ポイント減少し、30代、50代では大きな変化はみられなかった。

ボーナスの用途計画について今回調査では、消費割合が全体に低下し、「消費」から「貯蓄」へのシフト傾向がうかがわれた。

(以上、7、8、9図参照)



(5) 貯蓄の目的

「貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」が上位3位

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が46.8%で最も高く、以下「老後の備え」が29.5%、「教育」が29.0%などと続いた。昨年夏と同様、この3項目が上位3位を占め、順位も同じであったが、「安心だから」は昨年夏に比べ4.8ポイント増加した。このほかでは4位の「旅行」が25.1%となり、3.7ポイント増加した。

男女別にみると、男性は「教育」の割合が「老後の備え」を上回った。また、「住宅」の

割合が高く、「旅行」、「病気の備え」は比較的低かった。一方、女性は「旅行」が3位となったほか、「病気の備え」、「老後の備え」の割合が比較的高かった。独身・既婚別では、独身者は「安心だから」の割合が6割近くを占めたほか、「旅行」が2位となった。一方、既婚者は「教育」の割合が4割を超え1位となったほか、「老後の備え」、「住宅」が比較的高かった。

(以上、2表参照)

(2表)貯蓄の目的(複数回答)

(単位:%)

	男	性女	性	独	身	既	婚	25年夏計	24年夏計	23年夏計
住 宅	14.0		11.2		5.7		17.3	12.5	14.3	13.9
教 育	(2) 31.3		27.0		5.3	(1)	45.8	(3) 29.0	(3) 28.7	(3) 28.3
結 婚	6.6		8.9		17.3		1.2	7.8	8.0	9.5
旅 行	17.9	(3)	31.3	(2)	32.7		19.9	25.1	21.4	18.3
耐久性消費財	11.9		9.4		9.7		11.2	10.6	13.7	13.0
病気の備え	8.4		12.5		10.0		11.0	10.6	11.8	12.6
老後の備え	(3) 26.0	(2)	32.6	(3)	18.7	(3)	37.1	(2) 29.5	(2) 30.4	(2) 30.6
安心だから	(1) 46.0	(1)	47.6	(1)	59.7	(2)	37.9	(1) 46.8	(1) 42.0	(1) 44.7

2. 最近の暮らし向き調査

暮らし向き指数、昨年冬に比べ3.9ポイント上昇

まず、「昨年の今頃に比べ、最近の暮らし向きはいかがですか」と尋ねたところ、「良くなった」が5.5%、「変わらない」が79.3%、「悪くなった」が15.2%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は24年冬に比べ3.9ポイント上昇し45.1となった。「良くなった」とする割合が0.8ポイント増加、「悪くなった」とする割合は7.1ポイント減少し、「変わらない」とする割合は6.3ポイント増加した。「悪くなった」とする割合が20%を下回ったのは平成8年冬以来

16年半ぶりである。暮らし向き指数は3期(半期毎)連続で40.0を超えており、暮らし向きの悪化に底打ち感がうかがわれる。

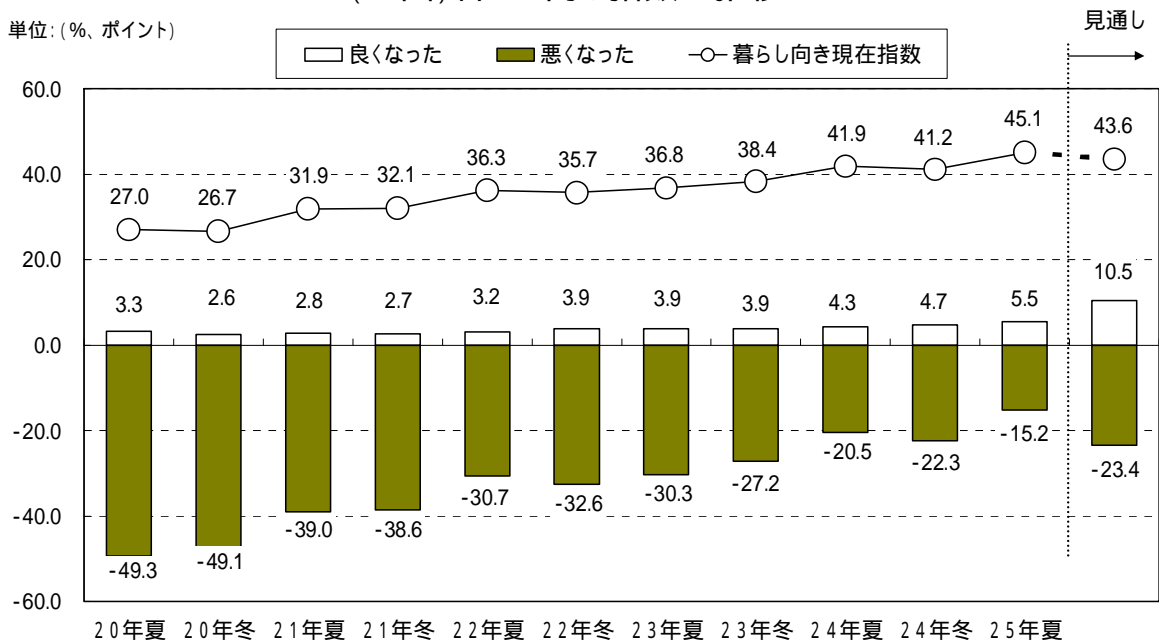
属性別にみると、「良くなった」とする割合は20代で10.7%となった。また、他の属性は1ケタ台にとどまったものの、24年冬に比べ全体に割合が幾分増加した。一方、「悪くなった」とする割合は、20代が8.3%、30代が9.9%と1ケタにとどまったほか、24年冬に比べ全ての属性で割合が減少した。

次に「1年後の暮らし向きはどうかと考
えますか」との問いに対しては、「良くなる」が
10.5%、「変わらない」が 66.2%、「悪くなる」
が 23.4%となった。「良くなる」は 20 代で
4.3 ポイント増加するほか、全ての属性で増
加がみられ、全体では現在より 5.0 ポイント
増加する見通しとなっている。一方、「悪く
なる」は全ての属性で増加し、全体では現

在より 8.2 ポイント増加し、増加幅は「良くな
る」を上回った。この結果、「今後の暮らし向
き指数」は「現在の暮らし向き指数」を 1.5 ポ
イント下回る 43.6 と、幾分低下する見通しと
なっている。

(以上、10 図、3 表参照)

(10図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方 (属性)

(単位: %)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	5.1	10.5	78.1	65.3	16.7	24.2	44.2	43.1
女性	5.8	10.5	80.3	66.9	13.9	22.7	45.9	43.9
独身	8.0	11.8	80.8	72.5	11.3	15.7	48.4	48.1
既婚	3.9	9.6	78.4	62.2	17.7	28.2	43.1	40.7
民間	5.2	10.9	81.7	68.8	13.0	20.3	46.1	45.3
公務員	6.2	9.1	72.3	58.7	21.5	32.2	42.4	38.4
20代	10.7	15.0	81.1	70.5	8.3	14.5	51.2	50.2
30代	4.0	9.6	86.1	75.0	9.9	15.4	47.1	47.1
40代	4.9	10.1	75.4	62.5	19.8	27.3	42.5	41.4
50代	3.0	7.5	73.5	54.5	23.5	38.0	39.8	34.8
全体	5.5	10.5	79.3	66.2	15.2	23.4	45.1	43.6

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

以上

【調査要領】

調査対象者 県内在住の男女給与所得者
調査時期 平成 25 年 5 月下旬～6 月上旬
配布・回収枚数 配布枚数 1,000 枚
回収枚数 949 枚 (回収率 94.9%)

回答者内訳

(単位:人、歳)

属性	男性	女性	合計
20 代	89 (25.9)	118 (25.5)	207 (25.6)
30 代	121 (34.9)	153 (34.8)	274 (34.8)
40 代	117 (43.2)	151 (43.7)	268 (43.5)
50 代	103 (55.3)	97 (54.5)	200 (54.9)
独身	143 (32.4)	222 (33.4)	365 (33.0)
既婚	287 (44.1)	297 (43.1)	584 (43.6)
民間企業	301 (39.8)	405 (39.2)	706 (39.4)
公務員	129 (41.1)	114 (38.0)	243 (39.7)
合計	430 (40.2)	519 (38.9)	949 (39.5)

注:()内は平均年齢

本件に関する照会先
一般財団法人 青森地域社会研究所
担当:野里和廣(TEL017-777-1511)